

ほのぼのファミリー通信vol.2

1997年8月発行
 第1巻第2号(通巻2号)
 発行人:佐藤 直人
 発行所:全国二分脊椎症児を守る会
 山形支部
 編集人:横山 和江
 鈴木 勝男
 三浦 久美子

医療講演会に参加して

去る8月2日(土)に

医療講演会が上山療育訓練センターで開催されました。

講師は新潟労災病院 泌尿器科の高木 隆治先生で、『二分脊椎症児の排尿・排便障害について』という演題で行われました。

山形支部からは12、3家族の出席がありました。他にも上山療育センターの石井先生、本間先生やりハビリの五十嵐先生、看護婦の方も参加して下さいました。

高木先生は昭和48年より二分脊椎の患者を診ていらっしゃることで、かれこれ二十数年来この病気に関わっていらっしゃるそうです。その中で実際接している患者さん約100名へのアンケート調査結果のまとめが講演の趣旨でした。

二分脊椎症の患者さんの場合には高い割合で排尿・排便障害を伴う場合が多く、深刻な便失禁のケースもあります。高木先生はそれらの対策として、湯冷ましを用いた洗腸をご指導しているそうです。これは浣腸に比べ多少処置時間がかかるものの、薬剤を使用しない為に身体への負担が少ないことや、経費があまりかからないというメリットがあるそうです。

また排尿障害のケースでは膀胱拡大手術を施すこともあり、小



腸・結腸・虫垂を利用した拡大手術を行って良好な結果を得た事例があるとのこと。他に、結腸を使う場合、小腸を使う場合、胃を使う場合がありますが、いずれも一長一短があるそうです。これらの手術は、成長期が過ぎた後で長期入院が可能な時期(中学2年、高校2年等)が望ましいとのことでした。

専門的な医療の話の合間にもユーモアを交えた雑談や、具体的な患者さんの悩み話があり、お人柄が感じられる講演会だったと思います。ご自身も新潟支部に深く関わっていらっしゃるようで、先生のように熱心な方が、山形支部を支援して下さることは大変心強いと思います。

高木先生の益々のご活躍を期待したいと思います。(鈴木 勝男)

今回子供達と一緒に遊んで頂いたのは山形県立医療短期大学のボランティアサークルの皆さんでした。子供と遊ぶのは初めての事もあり、最初は戸惑いもあった様ですが、子供たちのハードな要求にもやさしく答えて下さり、汗だくになりながら3時間、仲良く過ごす事ができた様です。

9月14日(土)
 芋煮会の打ち合せ。(役員・担当)

今後の予定

場所:山形市総合福祉センター
 時間:10時~

10月19日(日)

芋煮会開催

場所-白鷹町“ドリーム館”を予定

詳細は、9月14日に決定します。

担当者:鈴木(健一)さん、高野さん、水沼さん

お子さんの近況報告(写真もOK)・困っている事(匿名可)、会に

お便り募集中!

についての意見等なんでもお寄せ下さい。

郵送先 〒990
 山形市十日町1-8-2-303
 横山 迄

e-mail: fwhx3269@mb.infoweb.ne.jp

近況報告欄

→歳ヶ月

先日(ちようど医療講演会の日)から一週間程入院してきました。いつも風邪とはちよつと違う様子だったので病院へ。

吐いたりしていたのでシャントトラブルでは...と思ったら“自家中毒”でした。退院後は暑さのせいはまだ本調子ではないのですが、いやな病院生活の中で一つだけ喜ばしい事がありました。待ち望んでいた一人歩きが出来るようになったのです!まだまだごちないですが、転んでは立ち転んでは立ちを繰り返してがんばっています。

鈴木さん

今年の5月から参加させて頂いている鈴木といいます。まだ、皆さんの顔と名前も一致しないといった状態で借りてきた猫状態です。

長女6歳、次女が悠4歳です。長女が二分脊椎/脊椎空洞症といふことで、右足に少しマヒがあります。会のごことはインターネットで全国を守る会を知り山形支部を紹介していただきました。これまでこの病気のことあまり知らず呑気な親だったのですが、皆さんのアドバイスもあって専門の医療機関に詳しく診察してもらおうと思つてるところです。どうぞ宜しくお願いします。